

◎今週の御言葉「悲しみが喜びに変わります」(創世記18章23～33節、ヨハネの福音書16章12～24節) 「アブラハムは近づいて申し上げた。『あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか。』」(23)「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみが喜びに変わります。」(22)

◎私たちには悲しみや苦しみが多々あります。しかし、それだけに終わることはないのではないのでしょうか？

◎創世記18章にはアブラハムと神の使いとの出会いが記されています。サラに子どもが生まれることを告げた後、ソドムとゴモラの叫びを確かめるために出かけた時、アブラハムはソドムとゴモラを滅びから助け出すために祈ったのです。

◎ヨハネの福音書14～16章は主イエス様が最後の晩餐の席上で語られた遺言です。主イエス様は「今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています」(16:5)と語り、「もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします」と約束された(同7)。この福音書には聖霊の働きが記されています。①「罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます」(同8)。②「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます」(同13, 14:17)。「御霊は聞くままに話し、やがて起ころうとすることを示す」。③「わたしの栄光を現します」(同14)。

◎本書14章には「父はもう一人の助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主はいつまでもあなたがたとともにおられるためです」と語られ(16)、「助け主、即ち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせて下さいます」(26)。「その御霊がわたしについてあかしします」(15:26)と明らかにされています。以上で明らかのように、聖霊は「助け主」「弁護者」「慰め主」(文語訳)「真理の御霊」などと語られています。

◎主イエスが「地上を去られる」ことは弟子たちにとって悲しい事ではありますが、主イエス様の目的は十字架の死と復活により贖いの業を成し遂げ、昇天されることにより、聖霊を遣わすと約束されたことなので、「あなたがたにとって益である」と語られ、今の苦しみは喜びに変わるのだと語り、弟子たちを励まされたのです。限りなき愛をもって愛して下さっている主イエス様は、弟子たちのことを配慮され、後に信じる者のためにも尊い約束をもって励まし、執り成し、祈っておられる御方なのです。真理の御霊に導かれて歩もう。